

エビラシダ *Gymnocarpium oyamense* (Baker) Ching

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。全国的に見ても希少な深山性の植物で、愛知県でも生育地、個体数共に極めて少なく、しかも伐採等の影響で減少傾向にある。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は細く、横走する。葉柄は細く、淡緑色またはわら色で長さ 12~25cm、葉身は葉柄に傾いてつき、三角状卵形で単羽状深裂、長さ 10~20cm、幅 6~15cm、先端は鋭頭、葉質は草質で淡黄緑色、羽片は最下のものが最も大きく、長さ 4~7cm、幅 1.2~2cm、下側は羽状に浅裂~中裂する。孢子のう群は円形~楕円形で、包膜はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 82084, 2007-8-25)。2 カ所に少数株が生育しているだけである。西：5 稲武 (大野瀬, 村松正雄 19883, 2000-8-27) にもあったが絶滅した。

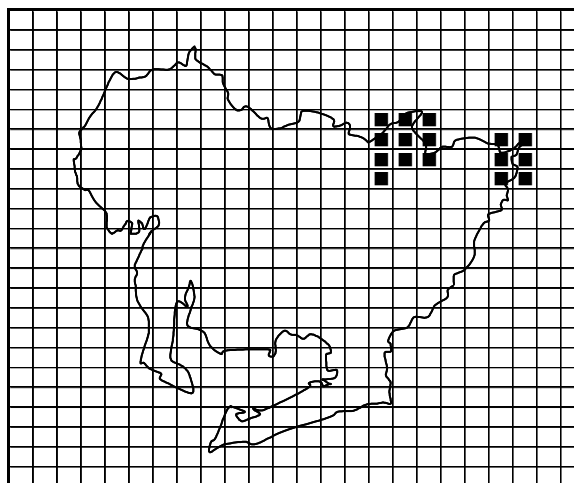
【国内の分布】

本州 (関東地方~近畿地方) および四国の深山に生育するが、稀である。

【世界の分布】

日本からヒマラヤ、ニューギニア、フィリピンにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの湿った岩崖地などに生育することが多い。愛知県の生育地もそのような場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

2 カ所とも個体数は少ない。川岸のものは岩場の崩壊や増水による流出、川岸からやや離れた場所のものは森林の伐採により失われるおそれがある。岩の下部に生育しているものは、ニホンジカによる食害も懸念される。稲武では、生育していた崖が崩落して絶滅した。

【保全上の留意点】

流域全体の森林の保全が必要である。園芸目的で採取されるおそれがあるため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

葉身が葉柄に対して直角に近い角度でつくので、ジクオレシダと呼ばれることがある。

【関連文献】

保シダ p.114, 平シダ p.229, 学シダ I p.405, SOS 旧版 p.41.
倉田 悟・中池敏之(編). 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 660-664. 東京大学出版会, 東京.